寅さん歩　その 26

東京の主要道路の起点～終点

江戸通り－2

平野　武宏

道路名の標識・経路案内標識や標識の数字・その形に興味を持った寅次郎、東京の主要道路を起点から終点まで道路標識を頼りに歩いて、各交差点で交差する道路を学びたいと思いました。2021 年 10 月から「不忍通り」、「白山通り」、「春日通り」、「明治通り」、「昭和通り」、「平成通り（番外編）」、「靖国通り（元大正通り）」、「目白通り」、「内堀通り」、「目黒通り」、「本郷通り」、「世田谷通り」と歩きました。元号を付けた道は歩きましたが、時代区分を見ると明治時代の前は江戸時代です。

今回は江戸の名を付けた「江戸通り」を歩いています。江戸時代から残る道なので江戸の風情が残るスポットが多そうです。江戸通りの起点から終点へ向かい左側を注意しながら歩きますが、見落としがあったら、ごめんなさい。

写真上右は江戸通りの現在での道路名標識（国道 6 号線）です。江戸通りは千代田区大手町二丁目ＪＲ東京駅近くの高架下交差点から台東区の隅田川の言問橋西交差点に至る延長約５ｋｍの道です。前回は起点の千代田区大手町二丁目ＪＲ高架下交差点から中央区日本橋馬喰町の浅草橋交差点まで歩きました。

今回は浅草橋から終点の言問橋西交差点まで歩きます。掲載の写真は人や車の密を避けた時間帯に撮影しました。詳細を知りたい方は各道路のホームページをご覧ください。最寄駅は交通機関を利用した場合の代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

［浅草橋］　　最寄駅　ＪＲ総武線　浅草橋駅

浅草橋交差点（写真下左）は中央区にあり、その先が浅草橋で下を流れる神田川が台東区との区境となります。
浅草橋の手前（写真下右）に「郡代屋敷跡」の説明板がありました。

説明板には「江戸時代に主として関東の幕府直轄領の年貢の徴収・治水・領民の紛争などを管理した関東郡代の役宅があった場所です。初めは江戸城の常盤門内にありましたが、明暦の大火（1657 年）により焼失後は、この地に移り、馬喰町郡代屋敷と称されました。文化 3 年（1806 年）関東郡代制が廃止され、さらに屋敷が焼失した後には、代官の拝領地となって、馬喰町御用屋敷と称されましたが、江戸の人々はこの地を長く郡代屋敷と呼んでいました」と記載。

写真上左は浅草橋から見た屋形船です。寅次郎、友人が船頭をしていたので幾度か利用しました。屋形船はここから東京湾や隅田川に出ます。

写真右上の浅草橋を渡った所にある**「浅草見附跡」**の碑（写真右）です。奥州街道が通るこの地は、浅草観音への道筋にあたるので「浅草御門」が築かれ、江戸城の警護として警護の人を配置したことから「浅草見附」と呼ばれました。江戸城三十六見附の一つです。神田川が江戸城外堀を兼ねていました。

さらに進むと寅次郎の大好物の鯛焼**「鳴門鯛焼本舗」**（写真下左）がありましたが、残念ながら開店前でした。ＪＲ総武線のガード（写真下右）をくぐると、左側はＪＲ総武線　浅草橋駅です。江戸通りの両側は玩具、人形、店飾などの問屋街で、雛人形・玩具の有名店の本店があります。

江戸通り沿いには神社も多くあります。すぐ先の左へ入る小道の先に**「銀杏岡八幡神社」**（写真下左右）がありました。源頼義、義家が奥州征伐の途中で、小高い丘の当地に銀杏の枝を差して戦勝を祈願し、1 年後の 1062 年（康平 5 年）に社を創建したと伝わります。江戸時代には福井藩松平家屋敷地となり、松平家の屋敷内社となったものを公収され、明治時代に町内（福井町）の産土神になったと伝わります。

その先の左には**「須賀神社」**（写真下左右）がありました。創建は不祥ですが 601 年（推古天皇九辛酉年）武蔵国豊島郡で疫病が流行した折、郷人等が牛頭天王の祠を立て、創始したと伝わります。江戸時代には祇園祠牛頭天王と称し、明治元年、須賀神社に改称しました。コロナ禍の昨今、疫病退散の幟が多くありました。

蔵前一丁目交差点の手前に説明板（写真下）がありました。

「この辺りは**江戸幕府の米蔵（浅草御蔵**）があったことから浅草蔵前と呼ばれた。米蔵は全国に散在した幕府直轄地から送られた米を収納するために造られた倉庫で三か所あった。大阪、京都二条とあわせ三御蔵といわれた。
その中でも特に浅草御蔵は重要であった。米蔵の用地は元和 6 年に鳥越の丘を削り、その土砂で隅田川岸を整地し造成された。当時は 67 棟もの蔵があったことから約 62 万５千俵（３万７千５百トン）の米を収納することができた。この米は幕府の非常備蓄米としての役割と、領地を持たない旗本・御家人に対する給料米であった。また 1782 年（天明 2 年）この近くには**幕府の天文台**が作られています」と記載。
明治時代になり、近代化を急ぐ政府は米蔵の跡地に**浅草文庫**（蔵書は後の国立公文書館に移す）、**東京職工学校**（現在の東京工業大学の前身）、**浅草火力発電所**（煙突は後の千住火力発電所に移され、お化け煙突と称された）を作りました。

［蔵前一丁目交差点］　台東区蔵前一丁目

最寄駅　都営地下鉄浅草線　浅草橋駅

蔵前一丁目交差点（写真下左）で蔵前橋通り（都道 315 号線）と交差します。左へ行くと鳥越、本郷方面、右へ行くと蔵前橋方面です。江戸通りは直進します。

［蔵前二丁目交差点］　台東区蔵前二丁目

最寄駅　都営地下鉄浅草線　浅草橋駅

蔵前二丁目交差点（写真下右）で国際通り（都道 462 号線）が分岐します。
国際通りは浅草、三ノ輪橋方面に行きます。

［厩橋交差点］　台東区蔵前三丁目

最寄駅　都営地下鉄大江戸線　蔵前駅

厩橋交差点（写真下左）で春日通り
（都道 453 号線）と交差します。
左へ行くと上野御徒町、本郷方面、
右へ行くと厩橋、亀戸方面です。
写真下右は厩橋です。

さらに進むと左側に**「諏訪神社」**（写真下左）があります。創建年代は不祥だが1000年又は1200年頃に信州の諏訪大社から勧請と伝承されている、駒形周辺の鎮守様です。その先には江戸時代からの老舗**「駒形（こまかた）どぜう本店」**（写真下右）がありました。

その先左に**「カバンの博物館」**があります。**詳しくは寅さん歩303　東京の博物館めぐりー2　台東区―2をご覧ください。**

［駒形橋西詰交差点］　台東区雷門二丁目

最寄駅　東京メトロ浅草線　浅草駅

駒形橋西詰交差点（写真上右）で浅草通り（都道 463 号線）と交差します。
左へ行くと上野方面、右へ行くと駒形橋、亀戸方面です。
写真下左は**「駒形橋」**、写真下右は交差点先にある**「駒形堂」**です。駒形堂は浅草寺のご本尊が墨田川よりご示現された地に立つお堂です。土地の人々によると駒形橋の名は駒形（こまがた）堂に由来しますが、駒形橋はコマカタと清く発音してコマガタと濁らないと伝えられているとのこと。駒形橋が架かる前には「駒形の渡し」がありました。

［吾妻橋交差点］ 台東区浅草一丁目

最寄駅　東京メトロ浅草線　浅草駅

吾妻橋交差点（写真下左）で雷門通りと交差します。左へ行くと雷門方面、右へ行くと**「吾妻橋」**（写真下右）で、川向こうは墨田区です。

写真下左は雷門方面の商店街、写真下右は交差点の正面にある**「東京スカイツリーライン（伊勢崎線）浅草駅」**と**「松屋」**です。浅草駅の左の道は馬車通りで浅草寺の二天門方面に行きます。江戸通りは浅草駅の右側の江戸通りを進みます。

［言問橋西交差点］　台東区花川戸二丁目

最寄駅　東武スカイツリーライン　浅草駅

言問橋西交差点（写真下右）の正面の白い 2 階建の交番が江戸通りの終点です。交差点の左は言問通り（都道 319 号線）の起点で谷中方面へ向かいます。直進は白鬚橋方面の都道 314 号線と南千住方面の都道 464 号線に分岐します。右は水戸街道（国道 6 号線）となり、言問橋を渡り柏方面へ向かいます。隅田川が台東区と墨田区の区境です。

写真下左右は「言問橋」と橋の途中から見た正面の景色です。

［こぼれ話］花川戸公園と二天門

言問橋西詰交差点手前に「東参道」の交差点があり、左へ行くと浅草寺二天門、右へ入ると墨田公園です。途中、二天門の手前右側に**「花川戸公園」**があり園内に**「姥ケ池」**の碑（写真下左）がありました。説明板には「姥ケ池は、昔、隅田川に通じていた大池で、明治 24 年に埋め立てられた。浅草寺の子院　妙音院所蔵の石枕にまつわる伝説には次のようなものがある。昔、浅茅ヶ原の一軒家で、娘が連れ込む旅人の頭を石枕でたたき殺す老婆がおり、ある夜、娘が旅人の身代わりになって、天井からつるした大石の下敷きになって死ぬ。それを悲しんで悪業を悔いやみ、老婆は池に身を投げて果てたので、里人はこれを姥ケ池と呼んだ」と記載。

写真上右は重要文化財の**「二天門」**で浅草寺の東門として 1649 年（慶安 2 年）頃に建立されたようですが、江戸時代を通じて浅草寺の西側に建てられた東照宮の随身門と伝えられ、随身像が安置されていました。寛永の火災で焼失しその後、東照宮は江戸城内に移されました。明治元年の神仏分離令によって門に安置された随身像は仏教を守護する四天王のうち持国天・増長天に二天像に変わり、門の名称も二天門と改称しました。雷門に比べて人通りも少なく、ゆっくりと見学出来る門です。

浅草の三社祭については寅さん歩 71　江戸・東京の祭－2 及び寅さん歩 93　江戸・東京の祭―22 三社祭―2 をご覧ください。

これにて江戸通りは起点から終点まで歩きました。距離の短い割には江戸時代から残された見所が満載でした。

［バーチャルウォーク途中経過］

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがＦＷＡホームページ「ＹＲ・四季の道」に掲載されています。バーチャル　東北復興支援絆ウォークを歩き終えた寅次郎、次はバーチャルウォーク　松尾芭蕉とあるく「奥の細道」に挑戦します。全行程約 600 里（約 2400ｋｍ）の長旅なので最後までたどり着けるか心配ですが、目標があれば元気に生きられると強がっています。
2022 年 4 月 26 日、江戸深川（現在の江東区深川）の芭蕉庵を出発、2022 年 6 月 21 日、白河の関（現在の福島県白河市）（江戸深川から 332ｋｍ）に到着しました。白河の関は古代関所のひとつで都から陸奥国に通じる東山道の要衝に設けられた関所として名高い奥州の三関の一つに数えられています。
八柳さんのコースシートには都度、芭蕉の俳句が掲載されています。
白河の関では同行の曽良が一句残しています。

「卯の花を　かざしに関の　晴れ着かな」
（注釈：古人はこの関を越えるのに、時には衣冠を改めて通ったと伝えられるが、改めるべき衣冠も持たない雲水行脚の自分たちは、折から辺りに咲き乱れている卯の花をかざしに、それをもって、この地に多くの名歌をよみ残した古人に敬意を表すべき関の晴れ着として越えていこう」

毎日の運動不足対策や事情で例会に参加できない場合はマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。
ＦＷＡのＨＰ「ＹＲ・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。
また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷して利用ください。
歩く際は密閉・密集・密接の密にならないよう、又それ以外の感染対策を怠らないようにお願いします！

平野　寅次郎　拝